



札幌でのシンポジウム開催の様子

公益財団法人 日本野鳥の会

風力発電施設の導入に向けて野鳥保護を 考慮したゾーニングのあり方に関する 情報収集、調査、普及、提言活動

資料集の発行部数 **300部**

検討委員会の
設立・開催 検討委員 **13人**

活動の全体目標に
対する達成度 **60%**

一般助成

2年目

調査研究

課 題

今後日本でも自然環境に負荷のない風力発電の立地選定が必要となる。欧米ではゾーニングが運用されるが、日本ではその意義や方法についてほとんど知られていない。

活動内容

日本でもゾーニングやセンシティビティマップの意義や進め方等について海外事例に学び、国内でのあり方を議論し、その結果を普及することが必要である。

そのために、海外事例の収集と紹介(1年目:海外WS開催/2年目:シンポジウム開催・資料集発行)を行い、風力発電と野鳥の脆弱性マップ作り検討会(第1回:2016年3月・東京、第2回:2016年8月・札幌、第3回:2017年3月・東京)を開催した。



野鳥保護資料集
第31集の表紙

成果と工夫した ポイント



成果

- ・環境省がマップ作成事業を開始。
- ・検討委員13名、シンポジウム参加者120名と関連記事掲載誌読者3万名、資料集頒布先(計450部)、当会機関誌読者(5万部)にマップの必要性が認識された。

工夫

センシティビティマップの作成を促進し、マップ対象地域における野鳥保護を進めるための施策とした。

今後の課題

- 活動成果を日本全国だけでなく世界中に普及することで、各国の自然保護団体等がセンシティビティマップを作成できるようになる。
- 国内で実際にマップ作成に着手する団体等が増えていく。